

平成29年3月7日(火) 》》 5月7日(日) 会場: しょうけい館1階



開館時間: 10:00 ~ 17:30 (入館は17:00まで) 休館日: 毎週月曜日 (祝日は開館・翌平日閉館)  
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13ツカキスクエア 九段下 TEL:03-3234-7821 FAX:03-3234-7826 <http://www.shokeikan.go.jp>

春の企画展

# 戦傷をのり越えて 描いた日々

～水木しげる・上田毅八郎の軌跡～

入館  
無料



「要するに、ぼくは“強い兵隊”ではなく“ただの人”だった。」  
水木しげる

「ここまで描けるのは、海で死んだ多くの仲間が私の体を動かしているからだ」と信じている。」

上田毅八郎



# 戦傷をのり越えて描いた日々

## ～水木しげる・上田毅八郎の軌跡～

漫画家・妖怪研究者として広く知られている水木しげる（本名 武良茂）、プラモデルの箱絵が代表作である海洋船舶画家の上田毅八郎、二人はともに戦傷病者でした。

左腕を失った水木は、戦後に右腕一本で紙芝居・貸本漫画のキャリアを積み、後に漫画家として人気を博します。利き腕である右腕の自由を失った上田は、左手で練習を重ね、精密かつ迫力のあるプラモデルの箱絵を描く画家として著名になりました。

しょうけい館では、常設企画展「武良茂（水木しげる）の人生」と題し、一兵士の武良茂が体験した戦地での生活・受傷・復員、そして戦後の混乱期を様々な職に就いてのり越えた労苦を作品・個人資料・映像でお伝えしています。また、数年にわたって寄贈された上田毅八郎の絵画作品・資料を、今日まで企画展・ミニ展示・映像などで紹介してきました。

惜しまれながらこの世を去られた二人の戦傷病者に対する追悼の意を込めて、二人の戦争体験を知ることのできる資料に加え、残された作品の中からあまり知られていない一面を垣間見ることのできる作品を中心に紹介します。



©水木プロ 南方へ出発する日に父と（水木しげる）



©水木プロ 背嚢を背負って砂浜を歩く（水木しげる）



左手で箱絵を描く（上田毅八郎）



軍事郵便の裏に右手で描いた艦船（上田毅八郎）

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年3月に開館しました。

しょうけい館という館名は、戦傷病者とそのご家族の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から、受け継ぎ、語り継ぐという意味の「承継」という言葉からとっています。

### 関連イベント

#### 水木と上田の証言映像上映

内容 しょうけい館が収録した水木しげるの夫妻と上田毅八郎の証言映像を上映します。

日時 会期中毎日 10:00～17:00

場所 しょうけい館1階証言映像シアター

鑑賞自由・無料

#### フロアレクチャー

内容 学芸員が企画展の展示解説をします。

日時 3月18日（土）、4月8日・22日（土）、5月6日（土）

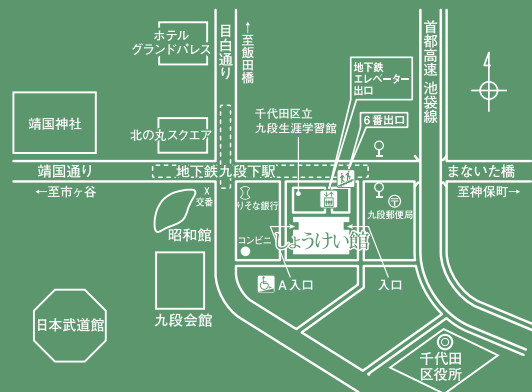
14:00～14:30

場所 しょうけい館1階

当日参加自由・無料



フロアレクチャー  
限定で、7mにも及ぶ  
水木しげるの  
「人生絵巻」全巻が  
ご覧いただけます！



- 地下鉄をご利用の場合  
「九段下」駅6番出口から徒歩1分（東西線、半蔵門線、都営新宿線）
  - 都営バスをご利用の場合  
「九段下」停留所から徒歩1分（高71系統（九段下～高田馬場駅））
- ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。  
※車椅子で来館される場合は館のA入口をご利用ください。

平成29年3月7日（火）～5月7日（日）

会場：しょうけい館1階

開館時間：10:00～17:30（入館は17:00まで）

休館日：毎週月曜日（祝日は開館・翌平日閉館）

